

# 書窓

## Shoso

No.428

2021.1

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561

兵庫県揖保郡太子町鰯

1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

### 子どもの本だな 86

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### はなのすきなうし

マンロー・リーフ おはなし ロバート・ローソン え 光吉 夏弥 やく (岩波書店)

昔、スペインにフェルジナンドという子牛がいました。他の子牛とちがって、フェルジナンドはひとり、草の上ですわって花のにおいをかいでいるのが好きでした。年がたち、フェルジナンドは大きくて強い牛になりましたが、あいかわらずコルクの木の

下で花のにおいをかいでいました。  
ある日、マドリードの闘牛に出す牛をさがすために男たちがやってきました。フェルジナンドはその時もコルクの木の下にすわろうとしていました。ところが、そこにはくまんばちが！おしりをさされたフェルジナンドは大暴れ。男たちは強い闘牛が見つかったと喜びます。マドリードの大闘牛場では、見物人が猛牛フェルジナンドの登場を楽しみにしていました。けれどもフェルジナンドはのっそりとその場に座りこみ、女の人たちがさしている花のにおいをかぎはじめます…。

白と黒だけで描かれた絵は素朴ですが、エネルギーで躍動感があふれています。花の好きなフェルジナンドらしいユーモラスな結末に思わず笑みがこぼれます。読んでもらえば4歳ぐらいから。(八木)

#### 黒ねこのおきゃくさま

ルース・エイズワース 作

荒 このみ 訳 山内 ふじ江 絵 (福音館書店)

雨風の強い冬の夜、貧しいおじいさんの家にびしょぬれの黒猫がやってきました。脚は細く、おなかはぺしゃんこ、しっぽは靴ひものようでした。

おじいさんは、猫のからだをふいてから、ミルクをやりました。それでも猫は満足しません。おじいさんはまたミルクとパンをやり、さらにもう一度やり、週に一度きりの肉まで全部やってしまいました。残りわずかな薪も、猫を温めるために燃やしました。次の朝、猫は見違えるほど堂々として外に出ていきました。黒猫が行ってしまった後、からっぽだった食器棚には食べ物が、薪入れには薪がいっぱいになっていました。

ひもじい思いをしながらも猫を満足させ喜ぶおじいさんの心の温かさが伝わります。淡い色の挿絵が、黒猫をひきたたせ、動きや表情をいきいきと伝えます。読んでもらえば5歳から楽しめます。(竹内)

1月	2月	1・2月の移動図書館（いずれも木曜日です）				
7日	11日	塚森 地域内 10:30～ 10:50	沖代 地域内 11:00～ 11:20	福地(三反長) 地域内 14:30～ 14:50	米田 公会堂 15:00～15:20	竹広南 公民館 15:30～15:50
14日	18日			原池団地 公民館 15:00～ 15:20	山田 掲示板前 15:30～15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00～16:30
21日	25日	広坂 公民館 10:30～ 10:50	上太田 公民館 11:00～ 11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30～15:50	吉福 公民館 16:00～16:30

#### <お知らせ>

##### 絵本の時間・おはなしの時間

1月の「絵本の時間」「おはなしの時間」の日程をお知らせします。(一部、規模を縮小して行います。)

##### ■「絵本の時間」

- ・1月7、14、21、28日の木曜日
- ・11:00～11:30

##### ■「おはなしの時間」

- ・1月9、16、23、30日の土曜日
- ・11:00～11:30
- ・対象:4歳～中学3年生

##### 【注意】

- ①人数が多い場合は、人数を制限させていただきます。
- ②おはなしの部屋に入る時は、マスクの着用をお願いします。

『 夢ひらく彼方へ 上・下 ファンタジーの周辺 』 渡辺 京二 著

亜紀書房 上：257頁 下：229頁 2019年10月刊 各1,700円（請求記号）902.3

著者は『逝きし世の面影』や『バテレンの世紀』で著名な歴史学者。また『苦海浄土』（石牟礼道子著）の編集者であり石牟礼最後のパートナーでもあった。本書は、そんな著者による「ファンタジー論」講義の記録である。

はじめに、どうしてファンタジーについて語ろうと思ったかをこら綴っている。「石牟礼さんが亡くなったあと、心身ともに何か暗い穴蔵に拘束されているようにしんどかったのですが、思い立ってC・S・ルイスの「ナルニア国物語」を読み返してみたのです。（何度か読んでいたので）読み返して新しい発見がある訳でもなかったのですが、おどろいたことに心がとても癒されました。体までちょっと楽になりました。そして本物のファンタジー、すぐれたファンタジーのすごさを今更のように痛感したのです。」

そして、ファンタジーは現実逃避の文学という非難があるが、現実というのは、世間ということ、逃げられないものだが没入しなければならぬものではなく、逃避して然るべきもの。本来、人は仲間を受け入れられたいという欲求と同時に、群れから離れたたいという欲求を持っていて、そこから生じる欠損感から、アナザワールドへの郷愁が生まれる。その表現であるファンタジーは、この人の世にひとり立ち向かう個々弧にとって、勇気の源泉となる。ファンタジーは、原始的なあこがれ、なつかしい感覚を、物語の形で定着してくれ、また自分の一生を振り返って茫漠たる感にうたれるとき、その一生の核心は何だったのか暗示してくれるところにあると述べている。

実際の作品についての記述はとても楽しい。「ナルニア国物語」を一作一作たどりながらルイスの人生にも触れ、またトールキンの作品や人生、「ゲド戦記」「メアリーポピンズ」、フェアジョンの作品など今まで何度も読んできた物語を読み返すようだった。歴史学者として様々な文献に触れ、また大変な読書家でもある著者が豊富な知識と実感をもって、偉大な文学と同等に「本当のファンタジー」を評価していることに喜びを感じる一冊だった。

(西村)



1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					×	×
×	4	×	6	7	8	9
10	11	×	×	14	15	16
17	18	×	20	21	22	23
24	25	×	27	28	×	30
31						

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	×	3	4	5	6
7	8	×	10	11	×	13
14	15	×	17	18	19	20
21	22	×	×	25	×	27
28						

\*カレンダーの×印は休館日

- ・12/29～1/3 は年末年始
- ・1/13、2/12、2/24 は祝日の振替
- ・1/29、2/26 は館内整理日

\*開館時間は 10:00～18:00  
金曜日は 20:00 まで開館

地下水

新春のお慶びを申し上げます。

今年もよろしくお願いたします。

利用者の方さんが「この本、良かったです。体の不調が激変しました！」と返却された本『ひとさじのはちみつ』（前田京子著 マガジンハウス）。私も出版された当時に読んで、はちみつの様々な効用に驚き、手元に置きたくて購入した本である（続編の『はちみつ日和』もある）。この本を読んではちみつが大好きになり、ミツバチの生態や養蜂へも興味は広がった。息子と一緒にミツバチの巣箱作りに参加したこともある。

自分が楽しんだ本を他の人に薦め、その人も楽しんでもらった時は、心から嬉しい。若い頃に大先輩から教わった「楽しみを分かち合うこと」は、図書館員として基本の姿勢だと思っている。本を読むことが好きでなく、本の楽しさを人に伝えたいと思う気持ちを持つこと。楽しいこと、嬉しいことを人と共有できれば、楽しさは倍増し人生はより豊かになる、と。

だから私は、「この本、良かったよ」と本を紹介されるととても嬉しい。本を通して心がつながったように感じるからだ。そしてカウンターに立った時は、常に自分から本の楽しさを伝えられるよう、本を読み、言葉をみががなくてはと思う。今年も職員一同、新たな気持ちでがんばりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(池田)